

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2016.10) 平成27年度:33.

手術を受ける患者の乗り換えホール入室から麻酔導入までの経時的な心理

梅田 奈津紀, 黒木 香織, 林 晃子, 山田 絵理

手術を受ける患者の乗り換えホール入室から麻酔導入までの経時的な心理

旭川医科大学病院 手術部ナースステーション

○梅田 奈津紀、黒木 香織、林 晃子、山田 絵理

I. 研究目的

手術を受ける患者の、乗り換えホール入室から手術室への移動前（以下ホール）、乗り換えホールから手術室までの移動時（以下移動時）、手術室入室から麻酔導入前（以下手術室入室以降）の3つの場面における経時的な心理を明らかにする。

II. 研究方法

対象はA病院で初めて全身麻酔の手術を受ける患者。研究期間は平成26年7～10月。データは手術入室時の心理について半構成面接を行い、逐語録をコード化し質的帰納的に分析した。研究に際しA大学倫理委員会の承認を得た。

III. 結果

対象の概要は男性5名・女性5名で、平均面接時間は15分であった。

ホールでは、【手術室環境】【手術への期待】【手術への緊張・不安】【術前訪問やスタッフの対応による安心感】の4個のカテゴリー、移動時は、【手術室環境】【手術への高まる実感】【手術室環境による緊張・恐怖】の3個のカテゴリー、手術室入室以降は、【手術室内の印象】【高まる緊張・不安・恐怖】【手術への覚悟】【スタッフの対応に対する安心】の4個のカテゴリーが抽出された。

VII. 考察

患者は様々な気持ちの変化を経て手術当日を迎えており、ホールでは初めての手術に対して

漠然とした緊張・不安を抱える一方で、手術をして早く病気を治そうという手術への期待を抱いていると考える。

移動時は、手術室特有の環境が患者に恐怖心を生じさせ、手術への緊張・不安は【手術室環境による緊張・恐怖】に変化したと考える。さらに手術器具などを見たことで手術が近付いていると感じ、ホールでの【手術への期待】から【手術への高まる実感】へと変化した。

手術室入室以降は、手術への緊張・不安が具体的になり増強し、【高まる緊張・不安・恐怖】に変化した。さらに準備が進んで行く事で手術への覚悟が決まっていき、移動時の【手術への高まる実感】は【手術への覚悟】へと変化した。

私たちは患者の手術への前向きな思いを強化し、不安や緊張に共感し患者に寄り添うことが必要だと考える。

VII. 結論

1. 116個のコード、26個のサブカテゴリー、11個のカテゴリーが抽出された。
2. ホールでの【手術への緊張・不安】が移動時には【手術室環境による緊張・恐怖】へと変化した。手術室入室以降は【高まる緊張・不安・恐怖】へと変化していた。
3. ホールでの【手術への期待】は、移動時には【手術への高まる実感】へと変化した。手術室入室以降は【手術への覚悟】と具体的になった。